

第4回世田谷区地域経済の持続可能な発展を目指す会議議事録

日時:令和5年8月10日(木) 18時00分~20時00分

場所:世田谷産業プラザ 3階 大小会議室

■ 出席者

〈委員〉

長山会長、中山(耕)副会長、古谷委員、栗山委員、千葉委員、城田委員、
竹内委員、見城委員、松原委員、児玉委員、市川委員、大石委員、
田中委員、中山(綾)委員(オンライン)、吉田(亮)委員、大藤委員、吉田(凌)委員

〈世田谷区〉

岩本副区長、納屋産業連携交流推進課長、荒井工業・ものづくり・雇用促進課長、
黒岩都市農業課長、平原消費生活課長

1.開会

【納屋産業連携交流推進課長】

定刻となりましたので、ただいまより第4回世田谷区地域経済の持続可能な発展を目指す会議を開催いたします。本日はお忙しいところ参加いただきまして誠にありがとうございます。

まだ来ていらっしゃらない方がいますが、本日は中山綾子委員が急遽オンライン参加となったほか、ほかの委員の皆様につきましては、出席されると聞いております。全体の1/2以上のご出席をいただいておりますので、会議を開催させていただきたいと思っております。

なお、栗山委員から所用により19時頃退席されるということで伺っております。

まず、配付資料でございますが、次第の下部に記載しておりますので、こちらに沿いまして、ご確認いただきますようお願いいたします。

不足がございましたら、事務局までお申し付けください。

本日の座席につきましては、勝手ながら事務局にてクジにより配席させていただいておりますので、ご了承いただければと思います。

本日も前回と同様に、田中委員のご協力のもと、本会議の議論やプレゼンの内容をイラストに落とし込むグラフィックレコーディングについて、株式会社 cocoroé の渡辺様に本会議へご出席いただいております。

渡辺様、よろしくお願いいたします。

加えまして、本日でございますけれども、本会議で議論いただいている内容と関連の深い取組として、現在、計画を進めております事業の運営を担う民間企業の方にもご参加をいただき、プレゼンいただくことを予定しております。具体的には、旧池尻中

学校跡地を活用した新たな産業活性化拠点事業の運営事業者である、株式会社 散歩社の代表取締役 小野様、オールドファッション株式会社の代表取締役 間中様にご出席いただいております。

小野様、間中様、よろしくお願いいいたします。

なお、この新たな産業活性化拠点事業ですが、後ほどプレゼンいただく予定ですが、区内の既存産業に対する支援や、新しい価値を創出する事業者や人材の育成、これらを通して、区内産業のイノベーションを創出・加速し、地域経済の持続的な発展を目指す拠点としていくことを目的としております。

区としましては、本事業を「持続可能な発展条例」を具現化する中心的取り組み中心的施設として位置付けていることから、本日ご出席いただいているということでご理解いただければと思います。

それでは、今後の議事につきましては、会長に進行をお願いしたいと思います。

長山会長、よろしくお願いいいたします。

【長山会長】

みなさんこんばんは。本日は第4回の会議ということになります。積極的な御議論をお願いいたします。本日の議題ですが、次第にありますように、まず、委員からの情報提供の後、地域経済の持続可能な発展を推進していくための基本的な考え方について議論します。前回までの議論を踏まえ、事務局にて、「目指す理想の姿」やそれを実現するための「戦略」等、「発展条例」「新産業ビジョン」のイメージ図をまとめております。これらについて具体的に議論していきたいと考えております。

それでは、議題1「委員からの情報提供」に入ってまいりたいと思います。この情報提供の趣旨につきましては、議論を掘り下げていく上での基礎的な材料と位置付けております。

本日は、見城委員と、先ほど紹介のありました小野様、間中様をお願いしたいと考えております。各プレゼンテーションは8分程度とし、その後に、プレゼン内容に関する質問時間を2分程度設けたいと思います。前方の演台にてお願いできればと思います。それでは、見城委員からお願いいたします。

2. 議題

1 委員からの情報提供(委員からのプレゼンテーション)

【見城委員】

みなさんこんばんは。推進委員会の見城です。よろしくお願いいいたします。

世田谷の持続可能性について考えるということで、発表させていただきます。

まず初めに持続可能と言った時に結構大事になってくるかなと思うので、すごいベースのベースのベースなんですけど、エシカルとはというところで書かせていただい

おります。エシカルとは、人や社会、地球環境、地域社会に配慮した考え方や行動のことですね。そこはしっかりベースにないと、この辺は考えていけないのかなと思ってるので、活動のときに使っている資料なんですけど、そのまま持ってまいりました。エシカルという考え方があって、エシカル消費というものがあるので、そのところもしっかりとベースとして捉えていただければなと思っております。エシカル消費の具体例としましては、こういったものがあるよというご紹介になります。消費を考えた時に、以前も顔の見える関係っていう話をしたかと思うんですけども、顔の見える関係であれば割と選びやすいけれども、そうじゃない場合、どうやったらエシカル消費っていうところに繋がるのかっていうところで、この認証ラベルっていうものが役立つよっていうようなお話をいつもさせていただいているので、ここでもあげさせていただいております。いろんなラベルがありますので、皆さんがご存知のものもあると思いますし、もしかしたらなかなか見かけないものもあつたりするかもしれないですが、このようなマークを見ながらお買い物していただければなということでご紹介です。

私たちは世田谷区をフェアトレードタウンにということで活動しているものですが、フェアトレードだったりエシカル消費を広めて、子供たちが育ちゆく未来の世田谷が一番人と地球にやさしいまちとなることを願っています。フェアトレードだけを推進しているわけではなく、エシカルだったりとかそういったところもしっかりと知っていただくことが大事かなと思って活動しております。

フェアトレードタウン世田谷推進委員会はそのエシカルというところで考えられる活動の一例として持ってまいりました。2020年より世田谷おいしいもの巡りスマイルプロジェクトというものをやっております。世田谷区内の飲食店さんにご協力をいただきまして、フェアトレードの素材を使ってメニューを提供して頂いて、それを消費者である私たちがスタンプラリーとして巡ってもらおうということを開始してございまして、昨年より世田谷区さんと協働事業としてやらせていただいております。スタート時の2020年は、すごく急なスタートだったので、十店舗の参加でしたが、今年は増えまして、24店舗の参加がありました。

もう一つ、フェアトレードタウンの活動の大きな一つになりました世田谷フェアトレードチョコパッケージデザインコンテストというのを昨年より行っております。これも、世田谷区との協働事業として行っています。世田谷区に在住、在学の小学生の方達はこのチラシをお配りしてございまして、実際にイラストを描いて送って応募してもらおうのですが、このデザインが実際のチョコレートのパッケージになって、お店に並ぶというものになります。左側にあります二つは、子供たちに配られるチラシですね。右側が昨年一回目だったんですけども、子供達から送られてきた絵を選びまして、ここにいらっしゃる栗山さんにも審査員として参加していただいたんですけども、で五つのパッケージが実際にしっかりと中にチョコレートが入った状態で、世田谷区内の何店舗かで実際に置いていただいて販売となりました。子供達にはフェアトレードという考え方であつたり、あなた

が未来に残したい大切な世田谷の風景っていうのをテーマにしているので、自分たちの地域、世田谷について考える時間になればいいなと思ってやっております。このパッケージは、世田谷区の福祉作業所、喜多見夢工房さんをお願いして、作っていただいているものになります。

世田谷のエシカルというところを見た時に、ここでお見せするのはちょっと少ないですけど、いろいろやってるよねっていう事例です。ボロ市とかは、リサイクルっていう形で長年やっているんで、エシカルというところ最近のことにように考えがちですけども、もう昔からすでにあつたものなので、改めてそこを繋げていただけるといいかなと思います。

ここから、私たちの提案になっていくんですけども、持続可能な発展条例というのを思い出して頂きまして、基本的方針のところ、地域経済の持続可能性を考慮した事業活動及びエシカル消費という言葉が入っております。解説のところにもありますが、製品やサービスを生み出す生産者、事業者だけでなく、それを利用する消費者とありまして、生産者、事業者、そして消費者というところがキーワードになってくるかなと思っています。で、消費者であり労働者であり生産者である区民っていうところで、割とエシカルというところエシカル消費っていうところにばかり注目が行って、どうしても消費者目線ばかりを見られがちですが、その消費者であると同時に労働者であり生産者でもあるところを注目していきたいと思っております。

産業ビジョンのところですね、消費者はエシカル消費を推奨、推進し、また事業者も社会課題解決を考慮した事業展開を求められている。っていうところをもってご提案になります。こんなところを条文に入れてもらえたらいいんじゃないかなっていうところになります。で、行政にこういうところを取り入れて欲しいっていう提案です。区庁舎や区の施設、学校といった行政機関への持続可能な取り組みの実践。エシカル製品の利用推進というのですね。で、実際に今回事例としていくつかあげさせていただきました。この場では全部お話ができないので、ぜひ皆さんチェックしていただいて、いろんなところでいろんな取り組みがあるんだなって言うところを知っていただけるといいかなと思っています。

グリーン調達から持続可能な調達へっていうこともありますが、グリーン調達は結構当たり前のものとして今まであつたと思うんですけども、もう今はそこから持続可能な調達の方に移っているんだよっていうところですね。そういったところもチェックしていただけるといいかなと思います。

名古屋市の事例というのがありますけれども、名古屋市はフェアトレードタウンなんです。で、名古屋市さんの方はけっこういろんなことをされているので、その辺も参考になるのかなと思うのでこちらも見てもらえるといいかなと思います。先ほどもお話ししました通り、消費者の側だけでなく、事業者の方もエシカルな商品っていうところに注目していただきたいので、行政から働きかけしていただけるといいんじゃないかなと思っています。

その事例もあげてありますので、是非とも見ていただけるといいかなと思うんです。北区の SDGs 推進企業認証制度っていうのがありまして、ここもすごく面白く取り入れていらっしゃるので注目して行けるといいんじゃないかなと思います。

海外ではやっぱりもっともっと進んでいるので、いろんな罰金などがあるものもあるのですが、なかなか日本だとそこは難しいのかなと思うので、一例としてあげておりますのでご覧いただければいいかなと思います。

農業について、農地を使った飲食店の開業許可っていうのはどうだろうということで、農家レストランっていうのは、いろんなところに来ていたようなので、世田谷区は農地もすごく大事にしているんで、そこを繋げていくともっと面白いものができるだろうし、持続可能というところにもつながっていくのかなと思っております。あとは観光の部分でモデル都市としてポートランドっていうものをあげさせていただいておりますが、いろんなことをされている土地なので、そこもチェックしていただけるといいかなと思って、名前を挙げさせていただいております。

提案です。せたがや Pay っていうものがあるので、それを上手く利用できないかなっていうことと、事業者向けの講座、勉強会っていうものをもう少し取り入れて頂けると、事業者さんの方にもエシカルの意識が広がっていくのかなと考えております。

あと、一例っていう形で、いろんな業種の方たちが、どういうふうにエシカルっていうところに取り組んでいけばいいんだろうってなった時に、一例として挙げさせてもらったのが、コンポストの推進で、建設業と農業と行政とつながってすべて循環して行くというようなこととか、こういったこととかもいろいろ考えられそうだなと思うので、考えていけたらと思っております。で、最後の方にはおまけの話ということで付けさせていただいたのは、私たちの定例会に、結構若い学生たちが参加してくださっているんで、学生たちの声っていうのも拾っていただけるといいかなと思って、つけさせていただいております。まずは、これで私の方からのプレゼンは終わるんですが、行政の方にぜひともいろんなところで取り入れていただきたいことを今回は結構まとめてきましたので、考えていただけるといいかなと思っております。

【長山会長】

ありがとうございました。ただいまのプレゼンテーションについてご質問ございますでしょうか？挙手をお願いします。田中委員をお願いします。

【田中委員】

プレゼンテーションありがとうございます。もう提案はすべて私は大賛成という内容で、特に柿野さんと今お仕事で一緒させて頂いたりとかしてるので、つなげられるんじゃないかなっていうふうに思いながらお話を聞いてました。私の理解を進めるために教え

ていただきたいのですが、コンポストの推進ってドイツとかだとかなり前に生ごみと普通ごみの分別と、コンポストが地域ごとあってというようなことを結構話を聞いているんですが、日本とヨーロッパ先進事例との違いみたいなところを少しお話伺わせてください。

【見城委員】

日本で今、生ごみとして捨てちゃいけないっていうのは聞いたことがなくて、もしかしたら調べたらあるかもしれないのですが、海外では生ごみはもうすでにごみとして出しにはいけないっていうところが出てきております。コンポストは流行りもあってなのかな、皆さんが割と環境の問題だったりとかを考えるようになって進んでいると思うんですね。家庭でも簡単に気軽にできるコンポストも出ていますし、そういう意味ではすごく進んできたかなと思うんですけども、行政単位でこうしようっていうふうにやっているとところはまだまだ少ないと思っていて、どちらかというと行政でのくくりではなくて、それをさらに小さくした地域ごとにやっています。例えばしもきた園芸部さんとかは地域でやっていたり、そういった事例は結構見られます。ほかの日本の各地でも、この温泉街とかそういう話はよく聞きますが、行政ごとに決まりを持ってっていうところは、まだ私の中でわからなくて、抜けてるかもしれないのですべてではないです。なので、世田谷は特にごみに対しても、もともとは何でも燃やせるっていうところから考え方も変わってきてるし、プラス農地もあるということで、すごく相性がいまいかなと思って提案の中に入れさせていただきました。

【長山会長】

その他、いかがでしょうか？ 提案がありましたので、また後でそれも検討してまいりたいと思います。ありがとうございます。

それでは続きまして、小野様、間中様お願いします。

【間中氏】

はい。本日はお時間をいただきまして、ありがとうございます。

私はオールドファッション株式会社の間中と申します。資料にも自己紹介もがございます。C社と書いてあるところで、プレゼンの資料そのまま使ったので、会社名出せず、そう記載しています。

私は世田谷ものづくり学校が開業してすぐ後、2006年から2009年まで3年間、副校長として在籍しておりました。その頃に自分のお店を世田谷公園の前に、オールドファッション株式会社というハンカチの専門店を作り、並行して商店会を作りましょうという呼びかけをさせていただきました。今は商店会の会長をしております。

世田谷でも何十年ぶりにできた新しい商店会ということで、先ほども定例会を行っていたんですが、30代40代の人間が多い、面白い商店会です。また場所柄、人がな

かなか足を運びにくい場所ということもあり、大きなお祭りイベントをしようということで、2011 年から世田谷パン祭りというイベントをはじめました。去年も開催させていただいて、2 日間で約 5 万人集まる地域で一番の大きなイベントを運営しております。

【小野氏】

株式会社散歩社の小野と申します。

弊社は謎の A 社みたいになってますけど、散歩社という会社を運営しております。間中さんがものづくり学校の事務局にいらっしゃったとき、2007 年にスクーリングパッドと言う、ものづくり学校で行われていた社会人学校のようなものに社会人二年目で通いまして、いろんな事業をやって、主にはグリーンズというウェブマガジンを 15 年ぐらいやっていました。ひょんなことから 2020 年の 4 月に世田谷代田・下北沢あたりで小田急電鉄と一緒に、現代版商店街ということで、2 階に住めて、1 階でお店ができる場所を新築で作って、今 4 年目を迎えます。

15 年ぐらい経って、文京区や中央区とか港区でもオフィスを構えたことがあるのですが、世田谷区に戻ってきて、代田に事務所を構えつつ、自分でお店をやったり、その商業施設自体をやっていたりするということもあって、古い縁と一緒にチームを組んで、ものづくり学校のリニューアルのプロポーザルに提案をしました。優先交渉権の権利を今いただいて、最終の調整を世田谷区と日々詰めているところです。この 1 月 2 月にプロポーザルがあったんですけども、その時の内容にはなりますが、簡単にご説明できればと思います。聞いていただければと思います。

【間中氏】

では引き続きご説明を続けさせていただきます。私共のプレゼンテーションは 6 社で構成されておりまして、B 社というのが小田急電鉄さんで、D 社というのが MIRAI-INSTITUTE という会社で、コワーキングスペースを中目黒であったり、永田町であったり、いろいろなところで活動している会社です。E 社というのがと freee という会社で、こちらはこの記載のとおりでご存知の方も多いかと思います。F 社がまちの保育園を運営されている会社で、この 6 社で運営し取組んでおります。名称は仮ですが、世田谷 village という名称にしておりまして、こちらに書いてある通り、いろいろな人材が価値を創造する場であったり、多様な働き方、職住近接の働き方ができるような場所、また未来の子供への教育学びができる場所、また、地域に根ざした賑わい世田谷らしい賑わいが生まれる場所と、そういった形で提案をさせていただいております。

具体的には、世田谷ものづくり学校、ご存知の方も多いかと思いますが、今回は体育館および目の前の校庭も使うことが条件になっております。ここを広場という形で、いろいろなイベントを行ったり、また社会実験、モビリティの社会実験なども行なえるように考えております。

また、体育館は既存の利用で8割はそのまま区民の方がご利用できる形になっているんですが、残りの2割の時間を使いまして、世田谷パン祭りのイベントで使わせていただいたりと考えています。さらにプロチームに入って頂いて、専門的なことを学んだり、そういうふうに使えるようにしたいと考えております。

右上のブックラウンジ。こちらは後ほど図面をご覧くださいますが、体育館の入り口の方で、人が足を運びやすい、新しい世田谷 village に行ってみようと言うように、気軽に行けるような場所としてブックラウンジを作ります。また、1階部分は主に、商業区画として飲食物販区画を考えております。

1階の部分では、チャレンジショップとして、いろいろなお店が実験的にお店をやる場所も検討しております。また奥の方には小さなお子様や障害のある方も含め、いろんな方が利用できる、多目的カフェを考えております。

2階の方は、まちの保育園さんに中心になっていただいて、子供たちがいろいろな座学ではなく体験をしたり、最新のテクノロジー含め学べる場所としてスクールの場所を用意しております。2階は主に、コワーキングスペースとして MIDORI.so さんに運営していただいて、たくさんの方が働いたり、中で交流ができる。そういったことも考えております。

3階は主にスモールオフィスとして、いろいろな拠点になったり、場所がしっかり欲しいと思った方たちが利用できるようなスモールオフィスになっていけばいいかなというふうに考えております。それ以外、色々なプログラムを検討しております。実施に向けて調整をしているところです。

場所のイメージとしましては、今まではこちらからは入るしかなかったんですが、入り口を大きく設けて。ここにイベントができるスペース、こちらに人がゆっくり滞在できるスペースと考えております。キッチンカーがあったり、モビリティの実験など、そういったことができるようなことができればと思っております。

入り口から見た風景なんですが、ここに階段を設けて、2階に上がれるような動線も考えています。こちらは校舎の1階部分なんですが、手前はおそらく飲食のお店が多いと思うんですが、テラスなども設けてゆったりできるような場所にしたいと思っております。こちらが先ほどご説明した通り体育館の1階部分をブックラウンジという形にできればと計画しています。

こちらが図面です。先ほど説明したような要素が盛り込まれているんですが、チャレンジショップ、チャレンジキッチンがこちらにあったり、カフェがあったり。奥の方では、物販サービス店舗が入ってくる場所になるかなというふうに思っております。2階はスクールとコワーキングスペース、そしてブックラウンジも体育館の一階二階を使って計画しております。3階はスモールオフィスになる予定です。

この後、詳細を説明すると時間が足りなくなってしまうので、実績であったり、具体的に考えていることにつきましては、こちらご覧頂いたり、後ほども質問がございましたら。

ご質問頂ければと思います。簡単ではございますが、以上説明とさせていただきます。

【長山会長】

ありがとうございました。ただいまのプレゼンテーションについて、ご質問ございますか？

無ければ、私の方からよろしいですか？

この事業というのは、まさに条例の具現化として、世田谷の未来を託すような、そういったものになっていて、非常にワクワクする施設になっています。こういった拠点が面的に広がるというか。キーワードで「顔が見える」というのが、この会議ではあったのですが。そうすると池尻エリアの方々が中心になってきてしまう感があります。三軒茶屋はまだ良いのですが、玉川、砧、成城、烏山とか、そういったところでもこういった拠点ができたらいいのではないかと思います。池尻の施設自体がまだできてないのに、先のこと言ってもどうかと思うんですが、今後、そういった形で、広がりを見せるための条件みたいなものが、もしあれば教えていただきたいというのが1点。

2点目は成果指標です。前のものづくり学校に対する成果としては、例えば起業者がどれだけ区内で輩出できたとか、そういった成果指標がありました。ただ、起業者が区外に出ていってしまうという問題があった。それが一部ネガティブな評価になりました。しかしながら、パン祭りも含めて、その地域でのコミュニティや世田谷のブランド形成にも関わっていて、ものづくり学校の違う評価の指標があれば、また別の評価だったのではないかと思います。そこで、ソーシャルインパクトという、この後議論の中でも出てきますが、そういったその指標をここで使っていくのがよろしいのではないかと思います。その場合、この新たな池尻の施設では、ソーシャルインパクトの指標として、どういった指標で評価するのが望ましいかと言うのが二点目の質問です。つまり、ご自身たちでされている目的と目標があるかと思うのですが、そういうものに絡めて、ソーシャルインパクトのその指標の具体的ないくつかを提示してもらえるとよいなと思いました。少しと難しい質問かもしれませんが、よろしいでしょうか。

【小野氏】

ありがとうございます。

一つ目、ものづくり学校はまだ始まってないんですけど、まずはそこをしっかりと盛り上げたいなと思っております。立地が世田谷公園の真ん前ということでいいとも言えますし、どの駅からも遠いというふうにも言えるので、かねてより、ものづくり学校が何をやっている場所か分からないといった評価もあったようですので、人が日常的に集まれる機能というのものも、校舎の中にありつつ、2階、3階でインキュベーションオフィスになってるというような設計していこうというところの観点と、それがエリアを超えて区内で広がっていくという意味で言うと、不動産オーナーさんとの付き合いというのがかなり

大事かなと思っております。

それがインパクト指標にも繋がるのかもしれませんが、間中さんはハンカチ屋さんを420商店会で営まれていますし、僕も新築の商店街のようなものを小田急電鉄さんと一緒に代田でやっているんですけども、なかなかいわゆるITベンチャーのように、投資家にあって、イグジットを目指してみたいなタイプの、ベンチャー企業だけじゃなくて、生活関連サービスというような、90万人の人口が居て、その方たちが、東京で特別区で一番大きい人口で住民税、固定資産税がしっかり入ってくるみたいなのところなので、その住んでの方が面白い、豊かな生活を送っていくためのサービスっていうのを生み出すっていうのが自然なのかなというふうに思っています。

そういうものが必ずしもITベンチャーだとフィールドを必要としないものとか、フィールドを超えてやらないと採算性がとれないものみたいなものがあるので、生活に根ざしたものっていうのがすごくわかりやすいのかなと思ってます。

ボーナストラックで、発酵食品の専門店が発酵デパートっていうものを3年前に施設開業と同時に開業して、僕も出資もしてるので数字のことがよく把握できているんですけど、コロナで途中潰れそうな時もあったんですけど、なんとか乗り越えて3年目4年目で1.2億ぐらい。発酵食品の専門店というだけで小売りと飲食で、小売の方が7割ぐらいで大きくて、飲食の方が3割ぐらいという比率ではあるんですけども、それは比較的、単価をそこまで細かく気にならない、高い醤油とか高いお酢とかが基本的に売ってるので、世田谷らしい創業のあり方で、それが感度の高い消費者によって生活によって支えられたみたいな事例かなと思ってます。

そういうものはおそらく世田谷区に残り続ける必然性みたいなものがあるのだろうなというふうに思うので、そういったタイプの創業支援して行く。ITベンチャーがいけないとか排除するとかじゃなくて、比率として強めていくものはそういうものなのかなと思ってます。

もう一つ、そのボーナストラックの近所の不動産オーナーさんが、ボーナストラックに入ってるようなテナントを誘致して自社ビルを開発されたいということだったので、テナントリーシングをお手伝いしてたんですけども、その古くなったビルを立て替えて1、2階をお店にして、3階をオフィスにして、4階を住宅にする開発をされて、僕も飛び地ではあるんですが、世田谷代田の駅のすぐそばなので、開発をちょっとお手伝いして、リーシングを少しお手伝いしたりみたいなことをやったので、生活関連サービスでというのは実業なので、どうしても商売する場所の確保みたいなものが必須になってきてしまうことが多くて、どうしても想いがあったとしても、なかなかものづくり学校で試しに出店してみた人が想いがあったとしても、世田谷区は人気の場所がとても多いです、駅からかなり遠い場所だと一人で戦って行けないみたいなのところもあるので、駅から近い場所を確保できるのか、駅から少し遠くてもまとまった出店数を確保して一気に開業するみたいなことができれば、生き残っていけるような、実業みたいなものが展開可能なのかな

と思います。

なので、指標としても世田谷区で育ったものが世田谷区に残り続けるっていう意味でも、不動産オーナーとの連携みたいなものは結構不可欠なのかなと思って、今ライターの方でもオーナーとのお付き合いみたいなこととか、その商店街に入らせていただいととか、町会の活動に参加させていただいてっていうので少しずつやっているところではあります、なかなかその日常的にインキュベーション施設をつくる不動産オーナーとすごく接点多いみたいなことではないので、工夫して接点を作っていけると、目にみえて、ものづくり学校の卒業生が世田谷区に残るといことが実現しやすいのかなと個人的には思っております。

【間中氏】

私もものづくり学校行った時に分かりづらい、入りづらいみたいなことをずっと言われ続けていました。分かりづらいなら、自分たちが外に出て行こうみたいなところから商店会を作ったということがございました。今も世田谷パン祭りのイベントも、そこにたくさんの方が来てくださることが大事だなと思ってやっているんです。

今週もキネコ国際映画祭運営の中心に入ってた田平さんと話して、映画のコンテンツをパン祭りのときに持って来てください、体育館あるんで使ってくださいみたいなお話もしております、じゃあ逆に、キネコ国際映画祭の時に世田谷パン祭りのコンテンツ持ってきてくださいみたいなことを約束して来ました。そういった形の広がりというのは、今後私もイベントをずっと続けてますし、商店街の連合会にも入らせていただいて、理事をやっておりますので、いろんなネットワークを広げて使って、この場所をさらに拡張して行く、そういったことはできるのかなというふうに思っております。

また、成果指標につきましては、まさに小野さんの言った発酵デパートメントもそうですし、私のハンカチの専門店を15年前に作った時は、何屋か分からないみたいなことをよく言われてたんですが、それでも私は今5店舗都内でお店をやっているのですが、kitteであったり、東京駅の中のグランスタに出してるんですが、他の場所にお店を出して、世田谷はやっぱり素晴らしいなあと改めて思ったのは、商品の価値を言葉で説明しなくても分かっていただけの方、本当に多いです。我々がここで目指しているのは、世田谷らしいビジネスの創造をまず中心にやっていくことが大事なんじゃないかなというのは、私の店でもそうですし、デパートメントさんでもそうなんじゃないかなというふうには感じているところです。ありがとうございます。

【田中委員】

成果指標の話をもう少し聞きたいです。どういったその指標が望ましいのかっていう部分が私も同様に聞きたいなと思ってたところです。

【間中氏】

分かりやすく言うと数とかそういったものを求められがちなんですが、数ではない世田谷らしい創業があったかどうかというところを具体的な言葉に落とし込めるといいかなと思っていて、それについてはもう長山先生と相談しながらかなと思ったりしています。今までの経緯から見ると、単純に創業がどれくらいあったのか、それが世田谷にどれくらい定着したのかだけの数字で見られがちだったのは、見方を変えることがこれから重要なのかなというふうに思っているところです。

【小野氏】

個人的には、まずはこれまでが本当に望ましい成果が出てなかったのかという振り返りが大事かなと思っています。僕も15年ぶりにではありますが、いろんな区を巡って戻ってきたとも言えるので、20年間やれてきた実績っていうのを、2、3年かけて紐解いていくみたいなことが、インキュベーションオフィス出ました、スクリーンパッド卒業生です、わざわざスクリーンパッド事務局にどこにオフィス構えましたみたいなこと言わないと思うので、定着率の測り方を設定して設計しておかないと測れなかったのかなと思います。

僕の周りは割と世田谷区にいるデザイナーさんや当時繋がった人がいるので、その人たちはカウントされているんだろうかというところが曖昧になっているのかなと感じます。測り方の設計とかなんかひも解き直しだけでも、卒業生コミュニティ、元関係者コミュニティが結構多様なのかなというふうに思っているところがあります。手弁当というか、手が回るところまではあるんですが、過去の関係者とか、そのスクールの卒業生とインキュベーションオフィスの卒業生とかを紐解いて集めて、もう一回入居者として帰ってきてもらうとか、飲食店などして帰ってきてもらうとか、スクリーンパッドのレストランビジネスの卒業生でおそらく千人単位でいると思うので、一人ぐらいいらっしゃるのかなと思うので、ほかの区でやっている方は知っているんですが、戻ってきて、計測可能な状態にするっていうのがまずスタートで、そこから何か見えてくるのかなっていうところに、すでに世田谷らしさがありそうな感じはしております。

【長山会長】

ありがとうございました。では、議題1についてはここまでとさせていただきます。

プレゼンいただいた皆様、貴重なお話やご意見をいただきましてありがとうございました。

それでは、議題2に移りたいと思います。本日は、資料4と資料5をベースに行いたいと思います。資料4については、4つの基本的方針ごとに「目指す姿」やそれを実現するための「戦略や視点」、「取組」等について、これまでの議論を事務局にて集約しております。資料5については、委員の皆様からいただいた発言等を踏まえ、全体

のイメージ図を作成しているところです。

これらについて、まずは事務局より説明をお願いします。

2. 議題

2 地域経済の持続可能な発展を推進していくための基本的な考え方について

【事務局】

資料3をご覧ください。

7月20日の第2回の勉強会の概要となります。全員にご出席いただいたわけではございませんので、一部ご紹介させていただきます。

1 ページ目の、4番目、5番目のところですが、地域で活動する事業者を応援することや、事業者を応援するカルチャーが世田谷に生まれるといい、ということで、応援する人の視点が必要との意見がございました。

また、下から、3番目、公共の役割としてセーフティーネットというのは必要であって、最後の砦であるというご意見。したがって、下から2つ目のところですが、世田谷の政策としては、誰も取り残さないというのが必要ではないかという意見がございました。

2 ページ目の 上から2つ目、3つ目のところですが、産業を支援する産業を後押ししていくことも必要ではないかというご意見もいただいたところです。

3 ページ目の上から2つ目、スローな起業ということで、学ぶ機会やいろいろな人と出会えるというような、地域でゆっくり熟成し育んでいくようなのが、世田谷らしい起業創業の形ではないかというものであったり、上から3つ目、1人1人が役割を持って生きるというウェルビーイングの観点が必要ではないかということもご意見をいただきました。

また、下から5番目のところですが、キャリアの継続という観点で、収入や保険の関係で働くことを停止した場合に、一方で社会的活動は続けたいというような人が将来に何かしらのメリットを得られる仕組みがあると、サステナブルな働き方に繋がるという意見がございました。また、下から、4番目のところ、支援機関の役割として、産業振興公社の役割についても、見直しをする必要があるんじゃないかという意見や、4 ページ目、下から2つ目のところですが、日常生活の中で、子どもがいろいろな活動をしている大人に会えることが多様な働き方につながるのではないかということ、6 ページ目の上から3番目のところですが、事業承継に関する話の中で、税理士や信用金庫さんなど、様々なところから情報が取れるプラットフォームのようなものが構築されるといいという意見がありました。また、下から、4番目、5番目のところですが、世田谷の農業や工業をはじめとした産業をどう捉えるかという話の中で、地域のコミュニティ醸成や人材育成の場などになっていたりすることが、世田谷らしさに繋がるのではないかという意見がございました。

7 ページ目の、下から2つ目ですけれども、ウェルビーイングというキーワードが必要とうことであったり、世代を超えてコミュニティができることがウェルビーイングの1つの

要素になり、そういう繋がりができることで地域経済がより盛り上がるので、そういう仕組みを作っていくのが必要じゃないかということでございました。

8 ページ目の下から 3 番目ですが、ソーシャルビジネスに関する資金の話の中で、ファンドであったりベンチャーキャピタルのようなところを検討していくことで、ソーシャルビジネスがうまく回る仕組みができるというご意見もありました。

勉強会の概要については以上とさせていただきます。

続きまして、資料 4 をご覧ください。

これは、勉強会の際にお送りしていた資料について、勉強会意見も踏まえて整理しなおしたものです。

まず、資料 4 の 1 ページ目が、基本の方針 1 に関するものですが、1 番左に背景、課題、目指す姿・インパクト、次に、目指す姿の実現に向けた考え方や視点、前回まで戦略としていたところですけども、さらに右にずれるとその視点や方向性に向けてどういう取り組みをやるかということで整理しております。

具体的に、まず、1 つ目の目指す姿として、「地域の事業者が安心して継続的に事業を営むことができる世田谷区」というのを掲げ、それを実現するために、どういう視点や方向性が必要かということで、まず 1 つ目が、セーフティーネットを充実させること、さらに、それは具体的にどういうことかという、例えば、融資あっせん制度の拡充という手法であり、さらに具体化すると、利子補給率の向上や限度額や要件に緩和とことを仮定的に記載しており、そういったことをもって、融資あっせん制度を拡充すると、セーフティーネットの充実につながり、ひいては地域の事業者が安心して事業を営むことができるということに繋がるということで整理しております。

戦略の列の 2 つ目ですが、事業者の生産性向上を後押しするということで、これは一つとして、設備投資を促進する、そのためには、生産性向上に資する設備導入の支援を実施していくであったり、ITツールを導入する際の支援、更には販路拡大の取り組みを後押しするということで、見本市への出店支援などがあるかと思っております。

そのほか、商品開発を後押し、従業員のスキル向上、事業者間の協業や連携を促進する機会や場の構築。こういう取り組みを通じて、事業者の生産性向上を後押しをしていくということで整理しております。

戦略の 3 番目のところですが、従業員を確保することや、雇用に関する相談の場、経営課題や取り組みを共有する場が必要じゃないかっていうこと。こうした取り組みにより、安定的な事業経営に必要な体制を構築することを後押しをしていくという形で整理しております。

戦略の次のところが、地域における事業者と消費者の相互理解の増進ということで、事業者を消費者にも知っていただいて顔の見える関係を構築していくということや、地域での受発注が促進される仕組みの構築、必要な情報への円滑なアクセス環境の向上ということで、支援策などにアクセスしやすい状況を構築するとか、もしくはビッグ

データなんかについて提供できる体制を構築していくというようなことで整理しております。

次に、目指す姿の 2 つ目として、「区民生活を支える産業が引き継がれていく世田谷」という街を目指すんじゃないかと置いた時に、事業者の事業運営継続に向けた体制構築環境の充実ということで、従業員の確保に関する支援や、円滑な事業承継に向けた顔の見える環境の構築ということで、事業承継に関する知識やノウハウの習得機会やプラットフォームの構築、担い手の育成・確保みたいなところを具体的に進めていくということで、整理をしております。

戦略の 3 番目のところが、影響を最小限に抑えた円滑な廃業の促進ということで、廃業時にも様々な知識が必要になるということで、廃業を想定する方の相談窓口を設置することや、専門家にご相談する機会があるとか、そういうところに取り組んでいく必要があるんじゃないかということでございます。

また、公共的役割を担う産業団体・組織の活性化ということで、産業が引き継がれていく土壌ということで、地域の産業団体や組織の活動が重要だというご意見も、これまでの会議の中で多くいただきました。

公共的役割に関する活動を後押しする支援であったり、組織力を強化する、つまり、加入を促すようなところを強化していくべきじゃないかというご意見を整理して記載しております。

1 番下に、産業を取り巻く立地環境の維持保全ということで、土地や環境の継続も必要という意見もあったと認識をしておりますので、そういったところの取り組みの検討が必要じゃないかということで記載をしているところです。

裏のページに行ってくださいまして、目指す姿の 3 番目として、「企業・事業者が定着し、成長する世田谷」ということで、そのためには、ハードとソフトにおけるビジネス環境の向上が必要じゃないか。特に、ハードに関しては、オフィスの確保ということで、コワーキングとか空き店舗の活用がもう少しうまくいくような取り組みを支援していくんじゃないかということで記載しております。

最後に、意欲や思いのある人が積極的にチャレンジできる街ということで、新たなチャレンジを後押しする環境や手段の充実ということで、専門家が伴走で支援をすとか、実証的に施行できる場とか、事業者間の交流の場とか、区民がチャレンジャーを応援する仕組みとか、そういったところを整理をしております。

2 つ目が、新たな価値をもたらす産業支援業ということで、産業支援業を活用した事業者支援ということで、地域の産業支援業、プロフェッショナルによる事業者支援を後押ししていくことが必要じゃないかとか、重複しますが、それがフリーランスなどの外部人材なんかの活用も後押しすると、新しい価値を生み出すためにコラボレーションができるんじゃないかということで、整理をしております。

更には、中間支援組織の機能強化ということで中間支援組織も重要な役割を果たさ

なければならない中で、機能の強化なども議論が必要じゃないかということでございます。

最後に、起業創業者を応援する仕組みの構築ということで、そのためには、知識やノウハウの部分や資金調達や手続きの部分のサポート、また、思いを形にする行動を後押しするという、仲間集めから専門家の伴走、区民が応援する仕組みということで、ファンドであったり、実証や区民モニターのフィードバックのシステムの構築というの、検討すべきではないかということでございます。

2枚目にお移りください。

基本的方針2にかかる部分について、目指す姿を3つ挙げております。

1つ目が、ライフスタイル等に応じた多様な働き方が選択できる世田谷ということで、そういう街を目指すためには、まず1つが、持続可能な働きかたを自ら選択できる環境を整備するという。職業紹介機能の充実や、相談機能の充実、環境の整備ということで、コワーキングとかシェアオフィスみたいなところの整備が必要とか、会議スペースに関する取組などを整理してございます。

また、マルチワーク、兼業・副業なんかを含む、そういったことが選択できる環境も構築する必要あるとか、日常の中で子どもと仕事が出会う機会を作っていくということで、例えば工業、農業分野をはじめとする産業分野と教育分野の交流機会を増加させるとか、子供と親が同空間で働くことができる場を作るとか、子供にフレンドリーな企業の活動を後押しすることで、そういう出会う機会であったり場を構築していくというようなことを記載してございます。

これらを通じて、目指す姿に掲げた、多様な働き方が選択できる世田谷というのを目指していくということでございます。

2つ目の姿が、心身ともに健康に働くことができるということで、健康経営の後押しやワークライフバランスの向上、ダイバーシティ経営の後押しなどとなっております。

3番目の姿が、起業家精神があふれる世田谷というのを目指すとしたときに、起業の促進というところがそれに資してくるんじゃないかということで、まずは、起業関心層を増加させると。そのために、アントレプレナー教育なんかの機会を作ったり、起業家と若年世代の交流の場の構築なんかを具体的な実施方法として挙げております。

戦略の2つ目が、起業創業者を支援する仕組みの構築ということで、知識やノウハウを習得できる場であったり、思いを形にする行動をということで、再掲ですが、仲間集めやファンドのような資金調達の仕組みなんかを整理しております。

また、起業家精神が溢れる街を目指す上では、起業経験者に来ていただくことも1つあるかと思いますが、実証や実験ができる空間の提供、空き店舗を活用できる状況、ビッグデータへのアクセスなどを構築すれば、そういったところを契機に企業経験者も集まりやすくなるんじゃないかということで整理しました。

次に、ページ開いていただきまして、基本的方針3について、目指す姿として、課

題への関心が高く、課題解決に参画しやすい世田谷区というところを目指すと掲げた場合に、関心を持つ区民の増加や、課題解決に参画できる環境の構築が必要ではないかということ。

目指す姿の 2 つ目が、関心を増やした上で、今度は事業者視点ですが、積極的に課題解決が展開されるということで、事業者の取組を促す 支援を充実させるということであったり、担い手間の共創を促していくというようなところを戦略の列に記載をしています。

ページ開いていただきまして、最後に、基本的方針 4 ですが、ここは 5 つの目指す姿に整理しております。

「地域経済の活性化やにぎわいが生み出される世田谷」ということで、地域内での継続的な消費の喚起を後押しするというので、世田谷ペイの活用であったり、来街者に消費を落としてもらう取組が必要かと考えてございます

2 つ目が、域外からの来街者の呼び込み促進、3 番目が、賑わいを生むためには、地元の方の愛着を高めて、地元での活動につなげていくことも必要かということでございます。

4 番目が、商店街による地域活性化の取組の促進ということで、商店街が様々実施しているにぎわい創出の取り組みなんかを行政もバックアップをさせていただくということや、そういうところを以て、最終的には 目指す姿で掲げた地域経済の活性化や賑わいを創出していくところを目指していくということで掲げております。

目指す姿の 2 つ目が、産業を取り巻く環境が受け継がれていく街ということで、商店街の公共的活動が活性化・継続されるということであったり、工業を続けていくためにはその準工業地域の保全、維持ということも重要になるということや、農地や緑地の保全維持も必要ということで整理しております。

3 番目が、未来志向の事業活動が積極的に展開される世田谷区ということで、事業者視点ですが、事業者におけるエシカルの醸成であったり、脱炭素の意識の醸成と実践の後押しも必要かと思っておりますので、そういったところを整理しております。

4 番目が、エシカルが消費者の身近に存在する世田谷ということで、消費者の視点で、エシカル関心層を増加させるであったり、実践できるというところの環境整備をしていくということでございます。

最後に、産業分野からウェルビーイングに貢献する世田谷ということで、街の自分ごと化できる環境を整備していくということで、産業分野と教育分野の連関やスポーツや文化とか、そういう街が盛り上がることで、地域経済が活性化し、個々の方のウェルビーイングにもつながっていくというようなことで記載しております。

資料 4 は以上です。

続きまして、資料 5 を簡単に申し上げますが、イメージでございます。

上の黒い四角い枠が、条例の 4 本柱であり、この 4 つを実現するために、赤枠で 1

つレイヤーを下げて目指す姿を挙げており、それぞれ向上させることによって4つの柱が向上すると、それにとよって、条例で掲げる最終的な目的に少しでも、より寄与していくというところを目指すということをイメージしております。

1 番下に、わくわくとか持続性とか、今までの議論から全てにかかる考え方ということで、総論というか、すべて施策の根底に流れるべきようなことを整理したということございます。こちらについても後ほど、捉え方や考え方等について、ご意見をいただければと思います。

次に、資料6ですが、今ご説明させていただいた資料4、5について、本日、ご議論いただきたいことを改めてペーパーに落とししたということですので、参考にさせていただきつつ、具体的なアイデア含め、ご意見いただければと存じます。

最後に、参考2をご覧くださいませでしょうか。

資料番号が振られていないのですが、ソーシャルインパクト指標とは、ということございまして、今回、ソーシャルインパクト指標というものを、最終的にはビジョンの中で作っていくことを想定しております。

実際には細かな指標を複合的に組み合わせていくことになる想定しておりますので、本会議で議論するレベルというよりは、あくまで大きな目指すべき方向、つまり、どういうインパクト、変化を目指すかというところを本会議でご議論いただいて、答申を踏まえて、区側で、それに基づいて具体的な設定をしていきたいと考えております。一方で、大きな考え方は、この会議でお示いただくことを想定しておりますので、ご参考までにご説明をしたいということでございます。

ソーシャルインパクト指標とはありますけども、直訳すると、社会的な効果の指標ということで、事業や活動の結果として生じた社会的な変化や効果に関する指標ということで、先ほど来の、目指す姿について、その達成状況を、測定・管理していくということで考えております。

イメージがわきにくいと思いますので、次のページにイメージを引用してますのでご覧くださいませと思います。

例えば、これはロジックモデルと言われるものですが、社会的な課題として、ダイバーシティの推進みたいなものを掲げたときに、個々のプロジェクトとして、例えばスポーツ施設の整備とか、障害者スポーツ用具の開発、製造、リースっていうのがあって、そういうところのアウトプットを図り、それがどう影響を与えたかをアウトカム欄で図り、それが最終的に総合されて、インパクトという形で社会の変化や目指す姿につながっていくということでございます。

こちらについては、本日、参考ということで説明させていただきました。

事務局としましては、資料4、5をメインに論点メモなども参照していただきつつ、ご意見いただければと思っております。

長くなり恐縮ですが、以上です。

【長山会長】

はい、ありがとうございました。本日は資料の 4 と 5 をベースに深掘りするという事で、論点ペーパーも参照しつつ、ご意見をいただきたいと思います。栗山委員が退室予定ということなので、最初にご意見ををお願いします。

【栗山委員】

栗山です。最初で申し訳ございません。最初のプレゼンからずっとお話を色々伺っていて思ったところもあるんですけども、資料 4 に関してはかなり細かく整理していただいているのでほとんど網羅してるんじゃないかなと思っています。

ただ、1、2 とそれから 3、4、特に 4 に関しては、例えば僕らで言うと、商店街だけで独自で取り組んでいくっていうのは、なかなかハードルが高いところがあるのかなと。1、2 は自分たちでも取り組んでいけるかなというところがあります。また個別のお店、会社かなと感じました。

プレゼンを聞いて、コミュニティが一つキーワードになっているのかなというふうに思っていて、商店街に関しては、古くからのコミュニティの一つだというふうに思っていますけれども、自然に発生してできてきた商店街、商業集積で、世田谷区の商店街っていうのは、都内でも結構有数の規模を有し、活発と思われていると思うんですけども、必ずしも全部の商店街がそういうわけではなくて、一部疲弊をしていたりして、持続して行くこと、商店街の組織そのものを持続して行くことが、結構大きな課題になっている地域、地区もあるということをまずご理解いただけたらというふうに思います。

今日、こういった会議に出席されている皆さんがある意味、商店街をうまく利用するような、利用っていうとちょっと語弊があると思うんですけども、連携してやっていけるようなことができないかなんていうふうにお話を伺って思いました。全部が全部できないっていうのは、出てくると思います。お店の人たち、特に若い人たちは、目の前の仕事、店をやっていくことで、結構手いっぱいなんですよね。さらに商店街活動を持っていう話を持って行っても、なかなかお店でいっぱい参画できないという話もよく聞いたりします。

そういった事情も踏まえて、例えば、今日こういった会議に参加されている皆さんもどこかで事務所なり事業所を構えていると思うので、近くの商店街にできたら加盟をしていただいて、中に入り込んでもらおうと話もしやすいし、地元で話ができるんじゃないかなというふうに思いました。で、それがだんだん世田谷全域に広がっていけば全体の盛り上がりにもなってくるんじゃないかなと感じました。中に入って、できたら加盟していただけると大変ありがたいかなと思っています。そうするとお互いにいろんな課題がまた見えてくるんじゃないかなと思っています。間中さんのところはもう中に入るんじゃなくて、自分で作っちゃったんですよね。すごいなと思います。

毎年、商業地の視察に行ったりするのですが、間中さんのものづくり学校みたいな企画っていうのは、小規模で結構やってる地方がありますが、世田谷区内でこれだけ大きな企画をっていうのは、びっくりしたんですけれども商店街の仲間としてもぜひ応援致しますので、よろしくお願いいたします。

地元で言うと、京王線の連続立体化工事が始まっていますので京王の高架化のヒントにも今日はなったかなと思います。高架下にコワーキングスペースとかも考えていけるんじゃないかなっていうふうに思いました。以上でございます。

【長山会長】

はい。ありがとうございます。それでは、ここからは、千葉委員より時計回りでお一方2分以内で発言をお願いいたします。

【千葉委員】

世工振の千葉です。

まだまとまってないですが、僕が思っているのは、資料4の話で言うと、3番、4番。地域及び社会課題に向けてのソーシャルビジネス推進を図るといふものと、持続可能性を考慮したといふものです。僕は考えさせられているんですが、地域の人とのコミュニケーションを図る場がないと理解してもらえない。先ほど勉強会、僕出なかったんですけど、世工振の話が出ていたみたいなので、理解をどのようにしてもらうか、人間と人間がどういうふうにコミュニケーションをとるか、コミュニケーションにとって初めて、「あなたの会社はこういうことやってるんですね」みたいのが出てくる。それなしで資料だけ見て、ホームページだけ見て、「こういうことやっています。だからよろしくね」って言われてもダメなんだろうな。でもダメって言い方が失礼なんです。地域の人が集まること、イベントなのか分からないですが、祭りとかに参加してもらうことをやらないと。やっぱり桜新町だけでいうなら、桜祭りとかい。企業の方も当然参加してるんですが、ご年配の社長さんとかもいるので、その会社が何やってるか担当者も出てこないっていうのもあるので、逆にそういう場を利用して、コミュニケーションをとるっていうことをやると、こういう情報交換できるみたいな話も当然出てきますし、モニターしてもらえませんか？っていう話も、仕事内容によってはできてくる。一般の方に、ブース出してやってもらうとか、そういうのもちよっとやり方次第で、実施の方法とかも含めて、考えることができるんじゃないかなと思いました。

あとは、人との接点がないと、関心や理解が進まないです。先ほど世工振の話に戻るんですが、そういう部分が大きいなと思ってるので、年齢関係なく交流ができる場をどのように作るのか。当然、今あるお祭りとか、そういうものを使って、大きいお祭りであれば、じゃあエリアごとにブース出せるかどうかっていうのも当然出てくるんですけども、エリアごとに区切って、このエリアの人で交流しましょうみたいなものもないわけではな

い。それが可能かどうか一回置いといて、そういうアイデアも、出来るならと面白いのかなと思いました。ただ、ものすごい数の物量をやらなければいけないことも出てくるので、その辺のバランスを取らなきゃいけないので、そこはちょっと今後の課題です。以上です。

【市川委員】

市川です。

すごく網羅されて、すごくブラッシュアップされたかと、まず思っています。

1 点思ったのが、2 の誰もが自己の個性や能力を発揮することができるっていうところですけど、起業家精神があふれる世田谷というところが少ししっくりこないって言い方はちょっと乱暴なんですけど、世田谷は果たして起業家精神があふれる街なのだろうかというの、あんまりピンと来ない。でも、当事者意識とか生活者の意識とか自分の街のことに関わるとか、そういった力はすごくあると思っています。

あと、起業自体を促す、世田谷らしい起業、世田谷らしいビジネスを生み出す、って事自体はとても重要なことだと思っているのでそれを否定するものではないのですが、ただその起業家精神溢れるというところに、冷静に考えてみたら、引っかかったという感じですよ。

あとは、私自身も創業した経験がありますが、むしろ世田谷の人材って、そういう人たちが事業が構造化されていくとか、浸透化して行くプロセスで関わってくれる力を持つ人の方が多いのではと思ったりしていて、基盤を作る段階に入ってこれる人材だとか。ゼロイチも増やさなきゃいけないけど、1を3なり5なり10にして行く段階で実は世田谷の人ってとても頼りになるのではと思ったりしました。それを個人の働き方の選択肢の方に書けばいいのか、それともこの起業家精神のところに何か書けばいいのか、まだその辺のアイデアがないのですが、もう少し多様な世田谷でビジネスが起こっていくところに、もう少しいろんな関わりシロがある街であったりとか、そういう人材がゼロイチだけじゃないような、なんかこう人材が活躍できる機会があるみたいなことが、どこかに入れられたらいいなと思いました。まだアイデアがなくて申し訳ないのですが、今回は以上です。ありがとうございます。

【松原委員】

東京青年会議所世田谷区委員会に所属しております、松原です。よろしくお願ひします。

まず一つ目の目指す姿につきまして、具体的に書いてあるので、私としては意見はございません。

戦略についてなんですけど、細かく書かれていらっしゃるんですけど、これは果たして

誰が主体的に行っていくのかっていうところ。さまざま専門家と書いてあるんですが、もう少し具体化されていくとイメージが付きやすいというか、達成のイメージが付きやすいというふうに思いました。

(資料6 論点ペーパー) 3つ目のシロマルと4つ目のシロマルについて、目指す姿や戦略実現するためという部分と資料5を念頭に条例と新ビジョンの実施・実現というところなんですが、僕が着目させていただいたのが資料5の、薄い水色の横で書いてある「経済発展並びに社会課題の解決を両立」というところ。実際、私もソーシャルビジネスや教育に関するビジネスをやっていますが、社会課題解決のソーシャルビジネスはなかなか儲けづらいっていうのがあります。儲ける仕組みをアイデアでこまかく出せると、それが発展して行くっていうのはもちろんあるんですが、これを一から今働いている企業を独立して、何かを立ち上げるっていうことでもなく、副業的にソーシャルビジネスを立ち上げるっていうのも選択肢としてはあるのかなというふうに思っております。二足のわらじみたいな感じですね。それでうまくコミュニティをつくっていけるといいのかなというふうに思いましたので、副業のすすめっていうのを世田谷区として推し進めるのも、一つありなのかなっていうのが具体的な案です。はい、以上でございます。

【見城委員】

私のほうからは今回エシカルっていうところが出ていますので、そこをお話した方が良いのかなと思っておりますけれども、前もってお話させていただいたので、わりと細かく出していただいているなあという感じを受けています。ただ、エシカルの戦略のところですかね、エシカル意識のところと脱炭素が分かれてるところがと私には違和感があって、エシカルの下に脱炭素が出てくるので、その辺の捉え方がもしかしたら違っているのかなっていう気はしないでもないところです。ただ、取り組みとか細かくいろんなことを出しているなあっていうふうに思っています。もっと具体的に細かくして行くことは可能かなと思うんですけども、まずは、その意識のところですね。その辺の方が重要になってくるのかなと思っているんで、こんな感じでいいんじゃないかなっていうふうには思っています。

【竹内委員】

産業振興公社の竹内です。

先日の勉強会での議論をかなり丁寧に拾っていただいたなという印象で、いろんな議論があったことを含めて入れていただけてると思います。

私共のセーフティネット的な役割を果たすというところで申し上げましたけれども、廃業の部分のところで、廃業の促進という言葉はないんじゃないかと思えます。

先日の議論で話された通り、廃業は起きる。どうしたってあるわけです。それについて、私は悪い方向に考えてしまうので、最悪の場合どうなるっていうところが描けている

方が思い切ったことがしやすいんじゃないかっていうところもあると思います。事業がうまくいかなかった時にやめられるとか、誰かに譲るとかそういうことが見えてるっていうのも一つチャレンジする意欲を引き出すんじゃないかなっていうような趣旨でこの話を申し上りました。そういうこともなかなか言いづらいんだけど、「辞められますよ」あるいは「引き継ぎますよ」っていうところが、見えてるっていうようなところを作るっていうのが大事かなっていうことを申し上げたつもりです。そんなところは訂正してください。

【吉田(凌)委員】

吉田です。

2つぐらい、感じたことがあり、これが本当に議論すべき事なのかとかも含めて話させていただきたいなというふうに思っていて。1つが、域外連携みたいなところが、要素として入ってなかったような感じがしたのですが。例えば子育てとかだと先月インタビューさせていただいた時に聞いた話だと、世田谷区に住んでいるけど、サービスの適用がされないみたいなこととかあってあったりする気がして。教育の分野とかでも結構域外連携みたいなところによって、越境学習みたいな感じで、学べるものがあったりするのかなと思ったりするんですけど、産業ビジョンなので、区内のものなので、これを議論すべきなのかわからないんですけど、その要素は多少入ってもいいのかなと感じました。

2つ目が、情報のオープン化とかマッチングみたいな話が結構出ていて、全体的に攻めのビジョンなのかなって思ったんですけど、その反面、偽情報が出回ったりとか、個人情報が出回ったり、個人情報が乱用されたりっていうケースもあるのかなというふうに思ったので、セキュリティの部分だったりとか、セキュリティ人材の部分の記載が少なかったのかなというふうに感じたのが2つ目です。以上です。

【大石委員】

UPDATER、みんな電力の大石です。

この資料4については、かなり網羅的に書かれているので、およそこれに追記する内容みたいなのを補足するような形で、もうおよそ網羅的に表現されているんじゃないかなと言う風に感じて読んでいました。

前回の議論の時はコメントする時間がなかったので、それも含めて今日お話できればと思ひまして、先ほど商店街の栗山委員がお話されてて、ぜひ商店街に加盟してくださいっていうお話されてましたけども、僕たちも実はものづくり学校さんからお世話になって、世田谷区でやらせていただいて、色々と経験させていただいてるベンチャーですけども、商店街さんにもすごく興味があるというか、全然参加して自然エネルギーショップとか、商店街の中に作ったら面白いよねとかって結構思ったりするんです。

前回、千葉委員ですとか、色々と工業会の皆さんからのお話にもあって、色んな実

はシーズというか、世田谷区の中で持ってらっしゃる色々なシーズっていうのもすごく活用したいなっていうか、色々そういう思いはあるんですけども。正直、私自身も勉強不足で、全部が全部網羅的に分かっていないというか、どんなシーズがそもそもあるのかっていうのが分かってないところがあって。なんでそれが分からないのかなっていうか、一言で言うと私の勉強不足っていうことなんですけど、どうしても余裕がないので。私たちからすると、それはどっちかという新興系会社なんですね。新興系会社からするとすごく根付いてやってらっしゃった皆さんの活動にすごく興味があって。逆に言えば、その連携して色々なことをやりたいなっていうのがすごくあるんですけど、なかなかその部分っていうのは、多分うまく連携できないなっていうもどかしさもちょっとあるので、この産業の実現と言いますか、おそらくその点と点のリソースは既にあるので、それをこううまく噛み合っていないからこそ、産業の発展の具体的な形が見えてこないのかなっていうのもあるので、その新旧といいますか、そういう分け方をすると怒られちゃうかもしれませんが、興味を持って人同士が上手くブレンドされるような仕組みみたいなものがあるといいなというふうには、前回の話と今回の話をお聞きしながら思いました。

あと、これの実現のために何が必要なのかなと思った時に、すでにベースがあって、それをこう上手く混ぜ合わせる機会みたいなのがやっぱり必要なんじゃないかなっていうふうに改めて思いました。

【城田委員】

農業協議会の城田と申します。よろしくお願ひします。

色々あるんですけど、農業に関わることで、お話をさせていただきたいと思います。区民と農業の接点の増加とか、そういうのはやっていかなきゃいけないんですけど、やっぱり個人ですね、どうしても難しいところがありますので、歳を取っている人もいますし、やってる人はやってるんですけど、やってない人はやってない。そういうところで私たち協議会がもう少し活発にやらなきゃいけなかったんだなっていう反省があります。最近色々資材関係なんかも上ってきて、実は私たちの方でもエコ農産物として世田谷ブランドのせたがやそだちっていうのがありまして、それにもう一つエコ農産物みたいな感じのブランドをもう1つ付けたいなというふうに思っています。それらの宣伝をもっとしなきゃいけないんですけど、やり切れていないっていうのがあります。例えば、レストランの経営者の方を呼んで、世田谷区でどういう野菜をどういう風に作っているのかっていうのをご説明したりですとか。それから、給食の栄養士さんと、どういうものが欲しいのかっていうのを話すっていう機会があまりないものですから、例えば即売会とかやってるんですけど、即売会にレストランの方、ぜひ見に来てほしいっていうような形が良いのかなって。そこに、この間も区長さんとお話させていただいたんですけど、エコっていうのをもっと前面に押し出してやる。そうすると、どうしても有機とかはお金がかかるんですよ、資材も3倍とかでかかっちゃうので。我々もなるべく農薬使わないような作

物を作りたいと思っていて、そのための資材とかもあるんですけども、お金がかかるということで、その辺の支援を区にお願いしたいというふうに思っています。

先ほど言いましたレストランとの連携っていうのは一部はやってるんですけども、やっぱり個人的なつながりなんですよね。なので、もう少し組織でできれば良いのかなと思うんですけど、両方であるんで、その辺のバランスが難しく、いっぱい欲しいって言われても、回り切れないこともありますね。需要があればそれに合わせて作付けとかできるんで、その辺をもう少し他の団体さんと話をして、農業を盛り上げていけば、若い人も継いでくれるのかなと思うんですけど。

最近、農地の生産緑地法の新しいのがありまして、あれでずいぶん手放した人がおられて、多分だいぶ減っていったらと思うんですけども。若い人にやってもらい、相続となると、本当にお金足りなくなっちゃって畑を売っちゃうんですよね。遺産相続はやっぱりみんなに分けなきゃいけないんで、よく言われているのは、3代続くと農家は終わっちゃう、その辺も無くさないようなシステムが無いと持たないかなとは思っているんですけども。私からは以上です。

【大藤委員】

区民委員の大藤です。よろしくお願いします。

私は資料4については、前回からすごくこれまでの議論を網羅的にまとめていただいて、すごく大変だったと思うんですけども、本当にありがとうございます。なので、私は資料4については全体的に違和感はありませんし、アイデアについても網羅されているのかなと思っています。

意見としては、この会議で話すっていうよりは、今後検討されていくのかなと思うんですけども、この資料4に書かれている方法というところがすごくたくさんあるので、これを全部実行できないだろうなって言うのは思っていて、そうした時にこの中で取捨選択をしたりとか、優先順位をつけたりですとか、どういうタイムラインで何をどれぐらいの時間をかけてやっていくのかみたいなロードマップ化して行くことが必要かなと思っています。それが結構重要になってくるのかなっていうふうには感じました。はい、以上です。

【中山(耕)委員】

世田谷区しんきん協議会の中山です。

資料に関しては、網羅的に盛り込んでいただいて良いかなと思います。

作り込みとすれば、やっぱり世田谷区は大学がたくさんありますので、私共は信用金庫ですけど、大学生が結構いきいきと色んな研究で取材を受けたり、色んなイベントに参加したりしておりますので、大学を取り込んだ、アカデミックなところと具体的な取り組みというところでもっと盛り込めればなと思っています。

あと、今、イベントとお祭りではほぼ毎週土日出ているのですが、露天販売で QR 決済のせたがや PAY が割と使い勝手が良いと感じています。売店に QR コード置いておくだけで、かなり簡単に集計ができ、キャッシュレスでも小銭もいりませんので、非常に効率が良い。今までの商店街の取り組みやお祭りとか、そういうものの中にせたがや PAY もだんだん溶け込んできたのかなと思います。これも具体的な取り組みで良いかなと私は思っております。

あと、個人的に、小野さんのポーナストラックに私も行って、発酵デパートメントで食べましたけど、地方から色んなものを集めて、法人自体はもしかしたら地方の法人かもしれませんが、経営者が上の階に住んでいたりします。これは昔の商店街のあり方で、自宅の一階で商売をやるということ下北沢では古くなったアパートで古着売ったりして、小さく創業されてどんどん広げていくという形がパターンですので、これも古いけど、新しいやり方かなと思っておりますので、どこかでこういうものも具体的な創業の事例として記載していいのかなと思っております。以上です。

【児玉委員】

建防協の児玉です。

私からは、1 番の地域産業と、4 番のエシカル消費というところで、この資料 4 に既に書き込んでいただいていると思うんですが、普段から思うのが、商品を提供したり、サービスを提供する側が、例えば SDGs にしろ、地域にこう考えて提供しているものと、消費をする方の思いが必ずしも合ってなかったり、もしくは隣に居る消費者の方の思いが、なかなか事業者が分からないまま、実はお互い良いことをしようとしてるのに、交わらないままずれていくような。そういうことであれば、やはり消費者と提供者の情報が上手くどっかで混ざるような、地域の区民の意見を聞くって言っても、別に今も町会の意見聞いたから消費者の意見ではないですし、やっぱりその地域だったり、年代だったり、そういう消費者と事業者のお互いが交わるようなものが産業と繋がるといいなと思っております。以上です。

【田中委員】

ソーシャルデザインの田中美帆です。

今日はプレゼンターの方から、色々インスピレーションをもらって、その点と、あと社会課題解決のソーシャルビジネスがどうやったら加速するのかなってところを、ちょっとプレゼンターの方からの言葉を借りながら考えてみました。

すごくそうだよって思ったのが、間中さんの世田谷って素晴らしい商品の良さを説明しなくても分かってくれる人が多いって、その言葉っていうのが本当にホンソレみたいな感じなんです。世田谷区民の民度の高さが我々住んでると分からないかもしれないんですけど、本当にあると思ってるんですよね。

うちの学生が八王子とかから来ると、人がぶつかってすごいにっこりされてとか、すごいみたいな感じで学生が言っていたり、民度高いよねみたいな感じになるんです。成熟社会が高いレベルで体現している地域が、まさにこの世田谷なんだなあっていう風には改めて思います。間中さんの言葉ではそうだったみたいな風に思っています。

あと起業家精神に関して違和感があるみたいなご意見があったんですが、別に起業する手前で、もっとソーシャルビジネスの実験の場みたいな、例えば、地域や行政と共に起こすコンポスト事業みたいなものの実験の場。で、それは多分世田谷区の主婦たちは待ち望んでいる部分だったりもする。他の地域ではそうでもないかもしれないけど、世田谷ではそれが実験の場として反応としてうまくいってというのと、あとそのかける民度の高さみたいなところと考えなきゃいけないかもしれないんですが、そういうのを喜んで受け入れる土壌であるっていうふうに思います。

なので、起業家ばかり盛り立てるじゃなくて、その起業するチャレンジがある、その人達とか行政とか取り組みみたいなものを取り込む、飲み込む、それらを活用するような、そんな世田谷の場みたいなところが盛り上がるとうるまいののかなというふうに思っておりました。以上になります。

【古谷委員】

古谷でございます。

2分では終わらないのでポイントだけ言います。この資料4、これ全部できますか。大前提として主語が見えないんです。誰がやるのか。色々書いてあって、促進とか支援っていうのは、役所がやるんでしょうと思うんですけど、実施とか書いてあるのをやれるんですかっていう話。まずそれがちょっと見えない。

それから戦略と書かれて目指す実現に向けた考え方を起こせっていう話を僕は前話したので、そういう言葉にしてもらった方がいいんですけど、これと戦略はイコールではないです。これはあくまで目次みたいなもので、戦略はなぜこれがこういう課題が出たかっていうことを、なんて言うかバックボーンとして戦略がないとこれが書けないわけです。だから戦略はごそつと抜けてる訳です。ここに戦略と書いて欲しくない。それ細かく言い出すと、ちょっとキリがない。

あと、例えばその産業の後押しだっっていうふうに考えるのであれば、インフラの問題は全く登場してこない。長いこと、高井戸に出口を作った方がいいんじゃないかとか、入り口がないから。運送だけではなく。区内の産業のやっぱり定点に繋がっていること、随分前からやっぱり言われてる問題であるとか。もっと言うならば、これは無理でしょうけど、JR が通ってないとか縦に移動ができないとか、そういう問題だっって産業を後押しする意味ではだいぶ足りてないんです。そういうのがやっぱりごそつとない、問題。

それからもっと言うならば、やっぱりこれは今後、もっともっと大きな課題になってくるんだろうけど、これは産業に関わる部分として空き家の問題です。亡くなって、身内も

いなくて相続ができなくて空いてる家も世田谷区内にいっぱいあって、実は私の事務所の隣もそうなんです。孤独死しちゃって、家空いてるんです。草もバンバン生えてきちゃって大事になってるんだけど、そういうのも誰も何もできない。何もできないことをなんとかするのが、行政に頼るしかないわけです。だから民間でできるとか、各団体でできるっていうのも、ここにいっぱい書いてあるので、それは書かなくていいと思います。そうすると、このページ数は減るし、これ全部、5年ぐらいの間に区役所で分担して、部長できますか。できないよね。だから減らすことも考えなきゃダメなんです。役所がやらなくてもいいよってものだって今もいっぱいあるんだから。もうそれは減らせばいいです。だって、これからどんどん人口が減って行って納税者も減るんだから、もう既に収入減ってるんだから。減らすことも考えたほうがいいです。その先の話は2時間ぐらいかかるから個別にまた話します。

【吉田(亮)委員】

ありがとうございます。三茶ワークの吉田です。

最後なんですけど、資料について2つ最初の質問があるんですけど、伺っても大丈夫ですか。

1つ目は、この資料5の下のところ、この位置づけというかここに書いてある狙いはどういうことだったのかなっていうのが、1つ目の質問です。ここはどういうことを表現したかったんだろうかっていうのを最初に伺いたかったんですけど。

【事務局】

できるだけ、頂いたご意見を姿の中に落とし込む作業をしてきたんですけど、そうした時に、1つ1つに落とし込むというよりは、全体に根底に流れるというか、何をやるにしても、そういったところを意識した上で、企画というか立案というかですね、そういったことをやる下に流れるものだっていうことで、明確にというか抽象的にしかあんまり言えないんですけども、そういうつもりで個別に入れるというよりは、全てのアクションを起こす際に意識しておく、そういうものだという事でイメージをしていたということです。

【吉田(亮)委員】

私もこのところは、産業ビジョンを実現して行くための共通のキーワードというか、取り組んでいる時に、大事に施策に落ちる時もそれぞれ大事にしたいよねっていうことが書かれているといいなと思ったので、認識は合っているなと思いました。

あと2つ目の質問が、このソーシャルインパクト指標のところ、すごい面白いなというふうに思ったんですけど、この指標の例っていうふうになって、結局アウトプットとしては金融庁のこの指標をみると、結局、指標をどれだったらどれなんだろうっていうのが分かんなくて、定量的な指標として、何か設定をするっていうことで合っているんです

か？定量的な設定をせずに、インパクトみたいなところを言葉で定義する予定ですか？ということなんですかね？

【事務局】

ありがとうございます。まず、そのインパクトっていうのが、私どもの今の理解だと、この目指す姿とニアリーイコールみたいな形になって、今の現状とこの目指す姿のところにギャップがあるので、そのギャップを埋めると言うことがそのソーシャルインパクトと言うか、そこを埋めていくということだと思っています。

そうした時にそれを目指す姿を単体で示す定量的なものはないと思っているので、だからこそ、このロジックモデルみたいなもので、複数を複合的に、定量的なものを引っ張ってきつつ、そこに客観的なものと主観的なものを上手く組み合わせて、最終的にはその組み合わせが、ある種これを示しているよねっていうところの、直接インパクトを1つの指標で測るのは難しいので、そこをできるだけ納得感を得られるものを考えていくと言うことで考えています。ご質問のお答えからすると、定量的なものをこう複数、複合的にやって行きたいということが、今の想定でございます。

【吉田(亮)委員】

わかりました。そうすると、最後感じたことに繋がってくるんですが、大藤さんと古谷さんおっしゃる通り、この施策を多分全部やるってリソース的には難しいと僕もそういうふうに考えていて、そう考えたときに、この目指す姿と戦略って書いてあるところと、その取り組み方法・提供方法、具体的な実施方法っていうここをこうツリー状に分解して整理するのが本当にいいんだろうかっていうのは見てて思いました。

おそらく一旦漏れなくこういう施策があるよねとか、こういうこと大事だよっていうのをちゃんとリストアップするって意味では、このやり方がすごくいいと思うんですが、例えば1つのこの施策が書いてある実施方法が、1つの目指す姿だけに当てはまるというわけじゃなくて、色んなところにこう当てはまるような感じがして、起業家と若い世代の交流の機会を作るみたいなものって、ただ起業・創業するっていうところよりも、日常の子供と仕事が出会うとか、チャレンジを後押しするとか、そういうのにも効いてくるのかなと思っていて、一旦ツリーに最終的には分けなくて、並べた時にこの施策ってどれが一番色んなところにインパクト効くんだろみたいなので、先程、古谷さんがおっしゃったような、どれをやるんだっけとか、優先順位決めてどうするんだっけみたいなところ出来るといいのかなっていうのが1つ思いました。

あともう1つは、戦略って考えてあるところは、ソーシャルインパクトの指標を作るのであれば、その指標を実現するような分解がされると、そのインパクトの指標と目指す姿の整合性が取れてくるような気がします。具体的に、その施策はこの指標とこの指標とこの指標に効いてきそうだねみたいなので、一番大事な施策って何なんだろうかみ

たいに考えられると、限られたリソースでできるんじゃないかなと言うふうに思ったと言う次第です。はい、以上です。

【長山会長】

オンラインで参加している中山委員、お願いします。

【中山(綾)委員】

資料 4 を拝見して、ここまで網羅的に議論を入れ込んでいただきありがとうございます。

資料 5 について個々の活躍が柱になったのはとてもいいと思いました。「起業家精神があふれる世田谷」は、起業家というハードルも高く、左にある意欲や思いのある人が積極的にチャレンジできるというほうがぴったりだと思いました。あくまでも起業したい人もちょっとなら手伝えるという人も自己決定の上でアクション出来る、チャレンジできるということなのかなと思います。資料 4 の具体アクションをすべて実行するのは難しいと思うと、資料 5 の柱それぞれが別に走っていくのではなく、相互に影響し合う、役割を重ね合うということもあると思うので、イメージを絵で示すのは難しいかもしれないが、下部の画像のように一体となっているような印象が持てるといいのかなと感じました。

【長山会長】

活発なご意見やご指摘をいただきましてありがとうございました。

本当は私からもいくつも意見はあるのですが、終了の時間が近づいてまいりました。勉強会もこの後ありますので、そちらの方でさらに資料 4 をブラッシュアップしていきたい。その視点として、資料 4 では、「誰が」とか主語、主体のところは決定的に必要なだろうと思います。また、一旦網羅して体系化するという事はこれでよいと思いますが、具体的な実施方法の例示に関しては、この中から今の産業ビジョンにもあるように、典型的な、シンボリックな事業をいくつか提示していく。例えば、重点的に取り組んでいきたい事業という形で提示してもらえるとよい。それはおそらくソーシャルインパクトが大きく、また条例の 4 つの柱を横断的なものとなる事業として提示できる。今の産業ビジョンでいえば「産業創造プラットフォームの創出」など典型的な事業が挙がっていたと思いますので、それらも踏まえて次回の勉強会で考えていければと思います。

それでは、今日もグラフィックレコードをとっていただいていますので、最後に渡辺様の方からご説明をお願いします。

【渡辺氏】

ありがとうございます。

最後に一言簡単ではございますが、いつも描かせていただいて、後日配布すると

「あれ、ボリューム増えてない？」みたいな。「あの時スカスカなったじゃん」みたいなところもあると思うんですけど、内容がいつも濃くて、資料をいつも持ち帰って拝見しながら、加筆したりしています。今回も、とてもおもしろい議論が繰り広げられているので、まとめていますので、皆さんの振り返りのために描いているっていうのもあるんですけど第三者が見たときにも「世田谷区こういうことやってるんだ」とか、「こういう人がいて、こういう思いでこういう活動してるんだ」みたいなコミュニケーションツールとしても使えると思います。なので、これからも、もし機会があれば振り返ったりとか、活用していただければ嬉しいです。また、これも仕上がり、楽しみにしていただければと思います。ありがとうございます。

【長山会長】

最後に、事務局より連絡事項がありましたらお願いします。

【事務局】

はい。事務局より事務連絡申し上げます。まずいつも同様ですけれども、本日の会議録につきましては、事務局にて作成の上、後日確認をお願いしたいと思っております。その上でホームページへの掲載をさせていただきたいと思っておりますので、ご了承ください。

また、次回ですけれども、第5回を9月7日木曜日に予定しておりますので、こちらもよろしくお願いいたします。

加えて、先ほどございました第3回の勉強会を8月24日木曜日に予定しております。また詳細をメールでご連絡を差し上げたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

事務局からは以上です。

3. 閉会

【長山会長】

それでは、第4回地域経済の持続可能な発展を目指す会議はこれにて終了いたします。本日は長時間ありがとうございました。